退任の挨拶

本日はお休みのところ、当会の総会にお集まり頂き、誠にありがとうございます。役員の変更に伴い、一言挨拶させていただきます。

退任の通知以降、なぜ事務局長を辞めるのかと聞かれるのですが、実は前々から考えていたことを実行に移しただけなのです。数えてみれば、2004年の設立から勤続12年、2001年の準備会からだとも15年、ある意味で社会人生活の前半をかけた仕事でした。なお、退職金は請求しません。

この間に取り組み続けた課題は、燃料の品質問題です。準備会を立ち上げたのも、大学院の研究者として調べてきた1980年代の失敗を繰り返さないよう、普及のためには燃料に品質規格が絶対に必要だという認識からでした。しかし、私の経験や説明の不足もあったと思います、理論と若さだけが武器のようなやり方に対して、思わぬ抵抗をあちこちから受けたというのが正直な感想です。しかも、いまだ亡霊のような存在に振り回されておりますから、この戦いに終止符を打つことができておりません。

今回を区切りに、一旦、代表職である事務局長の任を解いていただき、今後は運営委員の一人として係わることで、自分自身の身の振り様、団体としての活動を見直してみたいと考えております。

もう一つの理由は世代交代です。他山の石ではありませんが、代表がカリスマ化、高齢化してダメになる企業や団体は数多く、先日の日経新聞の記事では高齢化を理由に廃業する企業が増え続け、2030年には中小企業が消滅するとありました。

ペレットクラブはもはや個人商店でも仲良しクラブでもありません。なぜならば規格と認証という厳格なルールをもって業界を適正化することが我々の使命だからです。今、業界における我々の役割や存在意義を鑑みるなら、「流行らないからお店をたたむ」というわけにはいかないのです。それは、この間の努力の成果として漸く実を結ぼうとしているストーブの規格化と認証、省エネ基準を日本ペレットストーブ工業会とともに2020年までに仕上げなければならないことでも明らかです。その他、燃料や煙突、ボイラの規格化、認証、講習会、ユーザーへの情報提供や交流など、市場を発展させつつ、消費者保護を進めるためにはやるべきことが山積しております。

木質ペレットの普及を適切な方法で行いたい、消費者の視点で普及を後押ししたいというスタンスは一見わかりにくい立場ではありますが、いわゆる業界団体とは少し違った、新しい普及の形態なのではないかと思えます。このスタンスこそが、我々の特徴であり、生産者と行政のみの業界関係者に対して、消費者やユーザーという視点を持ち込むことが可能となり、もって健全な三角関係が成立する土壌になると、私は今でも信じています。

お陰さまで強引なリクルートの結果もあって、役員は無報酬であるにも係わらず、ペレットクラブの運営委員は新規の就任をいただいております、次期、次々期の人材は豊富にそろっております。停滞した状況を変えるためには自らが変わることが重要です。私自身が老害化して代表職に固執しないうちに、まずは思い切って辞めてみようと考えた訳です。

今後は新事務局長の体制で益々会を発展していただきたいと考えており、私も運営委員として、これまでと変わらず、あるいは過激に関わっていく所存ですので、皆様からも積極的な関与をいただき、熱い情熱を注いでいただければと思います。

以上、退任の挨拶でした。永い間、公私にわたって成長を見守っていただき、本当にありがとうございました。そして、引き続き、ご最良に願います。

2016年6月25日

小島健一郎